



Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics の概要

このセクションでは、Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics の概要について説明します。

- [Cisco Prime Collaboration Assurance の概要](#) (1 ページ)
- [Cisco Prime Collaboration Assurance の概要 - MSP モード](#) (19 ページ)
- [Enterprise モードと MSP モードの違い](#) (24 ページ)
- [Cisco Prime Collaboration Assurance NBI](#) (26 ページ)
- [Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics の Geo-Redundancy](#) (27 ページ)
- [新機能および変更された機能に関する情報](#), on page 27
- [Cisco Prime Collaboration Assurance の新機能](#), on page 30
- [Cisco Prime Collaboration Analytics の概要](#) (39 ページ)

Cisco Prime Collaboration Assurance の概要

このドキュメントでは、Cisco Prime Collaboration Assurance 11.0、11.1、11.5、11.6、12.1、12.1 SP1 の機能について説明します。

Cisco Prime Collaboration Assurance は、モニタリング、レポート機能を備えた包括的なビデオおよび音声サービスのアシュアランスおよび管理システムで、ユーザに一貫した高品質のビデオおよび音声コラボレーション体験を提供します。

表記法

次の規則が、Cisco Prime Collaboration Assurance のさまざまなリリース用のドキュメントで使用されています。

- すべての関連セクションでは、「セッション」から「会議」へと名前変更されました。



(注) 「セッション」という用語は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.1 以前のバージョンに適用されます。

- すべての関連セクションでは、「[Log Collection Center]」から「[Device Log Collector]」へと名前変更されました。



(注) 「[ログ収集センター (Log Collection Center)]」という用語は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.1 以前に適用されません。

- すべての関連セクションでは、「[Call Signalling Analyzer]」から「[SIP Call Flow Analyzer]」へと名前変更されました。



(注) 「[コールシグナリングの分析 (Call Signaling Analyzer)]」という用語は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.1 以前に適用されます。

- Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.5 では、「トラブルシューティング」はサポートされていません。



(注) 「トラブルシューティング」は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.1 以前に適用されます。

- **[Limited Visibility]** オプションは、Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 以降のダッシュボードではサポートされていません。**[Edit Visibility]** をクリックして、**[Full Visibility]** オプションまたは **[OFF]** に切り替えます。
- 「FIPS コンプライアンス」は Cisco Prime Collaboration Assurance Release 12.1 でサポートされていません。



(注) 「FIPS コンプライアンス」は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.6 以前に適用されます。

- 「クレデンシャルプロファイル」機能は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.6 の MSP モードでサポートされません。



(注) これにより、TelePresence エンドポイントは [アクセス (不可 Inaccessible)] として表示されます。

- 「スマート ライセンシング」 機能は、Cisco Prime Collaboration Assurance リリース 12.1 でサポートされません。
- Mobile and Remote Access (MRA) ソリューションを使用してエンドポイントが登録されている場合、「ビデオテスト コール」 機能はサポートされません。
- SSL が有効な LDAP 設定は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 12.1 でサポートされません。
- ユーザ インターフェイスに [CUCM SFTP クレデンシヤル (CUCM SFTP Credentials)] や [保存 (Save)] などのタブが追加されました。同じユーザのパスワードを変更するためのフィールドと、パスワードオプションを確認するためのオプションを使用できます。Cisco Prime Collaboration Assurance Release 12.1 Service Pack 3 では、ナビゲーションが [アラームとレポート管理 (Alarm & Report Administration)] -> [CDR ソース設定 (CDR Source Settings)] -> [CUCM SFTP クレデンシヤル (CUCM SFTP Credentials)] から [インベントリ (Inventory)] -> [インベントリ管理 (Inventory Management)] -> [CUCM SFTP クレデンシヤル (CUCM SFTP Credentials)] へと変更されました。
- Release 12.1 Service Pack 3 の Cisco Prime Collaboration Assurance ユーザ インターフェイスから、[CDR Source Settings] ダッシュレットと [Manage Call Quality Data Source Settings] ページが削除されました。

Cisco Prime Collaboration Assurance - Advanced

Cisco Prime Collaboration Assurance は次のモードで利用できます。

- Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced : Enterprise モードと MSP モード

および Advanced Assurance のインストールについては、『[Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics のインストールとアップグレードガイド](#)』を参照してください。

Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced は、ユーザが一貫した高品質のビデオおよび音声コラボレーションエクスペリエンスを確実に受信できるようにするモニタリング、およびレポート機能を備えた包括的なビデオおよび音声サービス保証および管理システムです。

- Enterprise モードは、企業内で1つのエンタープライズビューまたは複数のドメインビューを提供します。このオプションは通常、標準のシングルエンタープライズ環境で使用されます。
- MSP モードは複数のカスタマービューを提供します。このオプションは、マネージドサービスプロバイダーの環境で使用します。このビューでは、管理されている複数のカスタマーのデバイスを表示できます。MSP モードの詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Assurance ガイド - Advanced](#)』の *Cisco Prime Collaboration Assurance の概要 — MSP モード*」を参照してください。

次の表には、Cisco Prime Collaboration Assurance - および Advanced で利用可能な機能が示されています。

機能	Advanced	『Cisco Prime Collaboration Assurance ガイド - Advanced』の参照先
サポート対象モード	Enterprise モードと MSP モードをサポートしています。	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Overview of Cisco Prime Collaboration Assurance—MSP Mode</i> 」および「 <i>Differences Between the Enterprise Mode and the MSP Mode</i> 」の項を参照してください。
ライセンス要件	評価期限が切れると、ライセンスが必要になります。	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Manage Licenses</i> 」の項を参照してください。
ロールベースアクセスコントロール	<p>5つのロールをサポートして複数の承認レベルを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スーパー管理者 • システム管理者 • ネットワーク管理者 • オペレータ • ヘルプデスク <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>6つのロールをサポートして複数の承認レベルを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スーパー管理者 • システム管理者 • ネットワーク管理者 • オペレータ • ヘルプデスク • レポート ビューア 	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Manage Users</i> 」の項を参照してください。
シングルサインオンのサポート	対応	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Manage Users</i> 」の項を参照してください。
クラスタの管理	クラスタのリビジョンとクラスタの関連付けが混在する複数のクラスタを管理します。	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Set Up Clusters</i> 」の項を参照してください。

検出	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified CM（電話機および TelePresence）、Cisco VCS（TelePresence）、Cisco TMS（TelePresence）に登録されているすべてのエンドポイントを検出し、管理することができます。エンドポイントの管理に加えて、音声およびビデオコラボレーションネットワークに含まれる、マルチポイントスイッチ、アプリケーションマネージャ、コールプロセッサ、ルータ、スイッチも管理できます。 • 自動検出、インポート、デバイス追加の機能などの複数の検出モードを提供します。 • デバイスを検出するために、論理検出、ping スウィープ、CDP ベースの検出をサポートします。 • 再検出を実行するためのオプションを提供します。 <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>(注) CTS-Manager (TelePresence) デバイスはサポートされていません。</p>	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Discover Devices</i> 」の項を参照してください。
インベントリ管理	<ul style="list-style-type: none"> • デバイス 360° ビューから、デバイスの簡潔な概要情報を提供します。 • 包括的なインベントリ詳細を提供します。 	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Manage Inventory</i> 」の項を参照してください。

障害管理	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 クイック ビューを使用したトラブルシューティングの開始をサポートします。 • アラーム関連ルールをサポートします。 • デバイスおよびグローバルレベルでのイベントのカスタマイズをサポートします。 • 次のしきい値の設定を行います。 <ul style="list-style-type: none"> • TelePresence エンドポイント • インフラストラクチャ デバイス • コール品質 • デバイス プール 	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Monitor Alarms and Events</i> 」の項を参照してください。
音声およびビデオレポート	<p>次の定義済みレポートとカスタマイズ可能なレポートを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理レポート • Communications Manager のレポート • インタラクティブ レポート • スケジュール設定されたレポート 	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Dashboards and Reports</i> 」の項を参照してください。

ダッシュボード	<p>次のダッシュボードを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [Ops View] : Cisco Unified CM および VCS クラスタの概要を提供します。• サービス エクスペリエンス - サービス品質に関する情報を提供します。• アラーム-アラームの概要に関する情報を提供します。• [Performance] : 各管理対象デバイスの重要なパフォーマンスメトリックについて詳細情報を提供します。• Contact Center トポロジ - CUIC、Finesse、MediaSense、CVP、Unified CCE など、Contact Center のコンポーネントに関する情報を提供します。 <p>ホームページに、カスタマイズされたダッシュボードを追加できます。</p>	<p>Advanced の機能の詳細については、「Dashboards and Reports」の項を参照してください。</p>
---------	---	--

ダッシュボード	<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>次のダッシュボードを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Ops View] : Cisco Unified CM および VCS クラスターの概要を提供します。 • コール品質-サービス品質に関する情報を提供します。 • アラーム-アラームの概要に関する情報を提供します。 • [Performance] : 各管理対象デバイスの重要なパフォーマンス メトリックについて詳細情報を提供します。 • Contact Center トポロジ-CUIC、Finesse、MediaSense、CVP、Unified CCE など、Contact Center のコンポーネントに関する情報を提供します。 <p>ホームページに、カスタマイズされたダッシュボードを追加できます。</p> <p>また、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存のダッシュレットを別のダッシュボードに追加します。 • ダッシュレットをドラッグアンドドロップして、ダッシュボードの下に移動します。 	Advanced の機能の詳細については、「Dashboards and Reports」の項を参照してください。
---------	--	---

音声およびビデオ エンドポイントの診断	<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンドポイント、サービス インフラストラクチャ、および ネットワーク関連問題の具体的な情報など、エンドツーエンドメディアパスを詳細に分析します。 • ビデオの問題を特定するために Cisco メディア ネット テクノロジーを使用します。 • メディア パス計算、統計収集、合成トラフィックの生成を行います。 • IP SLA を使用して、ネットワーク内の主要な IP フォンの応答可能性を監視します。 • スケジュールした合成および IP SLA テストを使用して、サービスの停止を予測します。 <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • IP SLA を使用して、ネットワーク内の主要な IP フォンの応答可能性を監視します。 • スケジュールした合成および IP SLA テストを使用して、サービスの停止を予測します。 	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Perform Diagnostics</i> 」の項を参照してください。
ジョブ管理	ユーザがジョブを表示、スケジュール、および削除できるようにします。	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Manage Jobs</i> 」の項を参照してください。
UC アプリケーションの相互起動	Yes	-

Cisco Prime Collaboration Assurance サービスアビリティへのクロス起動	Yes	-
デバイスの検索	グローバル検索：TelePresence、エンドポイント、電話、その他のデバイス、場所、およびユーザに対してフィルタ処理された検索を提供します。	Advanced の機能の詳細については、「 <i>Global Search Options for Cisco Prime Collaboration Assurance</i> 」の項を参照してください。

<p>Cisco Prime Collaboration Analytics</p>	<p>ネットワーク内のトラフィックの傾向、テクノロジーの導入傾向、過度に使用されているリソース、あまり使用されていないリソースを簡単に特定できるようにします。また、断続的に発生したり、繰り返し発生したりするネットワークの問題を追跡し、Analytics のダッシュボードを使用してサービス品質の問題に対処できます。Analytics のダッシュボードには以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テクノロジー導入 • 資産使用状況 • トラフィック分析 • キャパシティ分析 • コール品質 • UC システム パフォーマンス • スケジュール設定されたレポート • ビデオ会議 • カスタム レポート ジェネレーター <p>(注) Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 Cisco Prime Collaboration Analytics は MSP モードの導入ではサポートされません。</p> <p>Cisco Prime Collaboration Analytics は、ライセンスを必要とするソフトウェアで、Cisco Prime Collaboration Assurance とは別に購入する必要があります。</p>	<p>『Cisco Prime Collaboration Analytics Guide』を参照してください。</p>
--	--	--

NB API	<p>NB API は、次の場合にサポートされます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスの管理 • デバイス クレデンシャルの表示および削除 • すべてのビデオ会議を一覧表示 • Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 ビデオ会議のトラブルシューティング 	<p>NB API のドキュメントにアクセスするには、管理者権限で Cisco Prime Collaboration Assurance サーバにログインし、ブラウザの URL に</p> <p><code>http://<pc-server-ip>/emsam/nbi/nbiDocumentation</code></p> <p>を入力します。</p> <p>ここで、pc-server-ip は Cisco Prime Collaboration Assurance サーバの IP アドレスです。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合</p> <p>NB API ドキュメントにアクセスするには、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバにログインし、ユーザインターフェイスの右上隅にある [設定 (Settings)] のドロップダウンメニューから [Assurance NB API ドキュメント (Assurance NB API documentation)] を選択します。</p>
--------	--	--

Cisco Prime Collaboration Assurance - Advanced 機能

Cisco Prime Collaboration Assurance ではネットワークを監視し、診断を実行することができます。また、問題の原因の特定に役立つレポートを実行できます。

音声とビデオの Unified Dashboard

Cisco Prime Collaboration Assurance ダッシュボードでは、音声およびビデオ コラボレーション ネットワークのエンドツーエンドでの監視が可能になります。次の概要が提供されます。

ダッシュボード	説明	Cisco Prime Collaboration Assurance オプション
サービス エクスペリエンス	やサービス品質に関する情報です。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
アラーム	に関する情報です。アラームの概要です。	Cisco Prime Collaboration Assurance
パフォーマンス	各管理対象デバイスの重要なパフォーマンス メトリックについて詳細情報を提供します。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced

Contact Center トポロジ	に関する情報です。Unified Contact Center のトポロジビューです。	Cisco Prime Collaboration Contact Center Assurance
---------------------	---	--

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

ダッシュボード	説明	Cisco Prime Collaboration Assurance オプション
コール品質	サービス品質に関する情報です。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
アラーム	アラームの概要に関する情報です。	Cisco Prime Collaboration Assurance
パフォーマンス	各管理対象デバイスの重要なパフォーマンス メトリックについて詳細情報を提供します。	Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced
Contact Center トポロジ	に関する情報です。Unified Contact Center のトポロジビューです。	Cisco Prime Collaboration Contact Center Assurance

Cisco Prime Collaboration Assurance サーバの導入後にダッシュレットを追加する方法については、「「Prime Collaboration ダッシュボード」」を参照してください。

[デバイスインベントリ (Device Inventory)][インベントリ管理 (Inventory Management)]

Cisco Unified Communications Manager (電話と TelePresence) 、Cisco Expressway (TelePresence) 、および Cisco TMS (TelePresence) に登録されたすべてのエンドポイントを検出、管理できます。エンドポイントの管理に加えて、音声およびビデオ コラボレーション ネットワークに含まれる、マルチポイント スイッチ、アプリケーション マネージャ、コール プロセッサ、ルータ、スイッチも管理できます。

検出では、デバイスインターフェイスと周辺機器の詳細も取得され、Cisco Prime Collaboration Assurance に保存されます。

検出が完了したら、次のデバイス管理タスクを実行できます。

- デバイスをユーザ定義グループにグループ化します。
- 管理対象デバイスの可視性の設定を編集します。
- デバイスのイベント設定をカスタマイズします。
- デバイスを再検出します。
- 管理対象デバイスのインベントリを更新します。
- 管理対象デバイスの管理を一時停止およびレジュームします。
- グループからデバイスを追加または削除します。

- デバイス クレデンシャルを管理します。
- デバイスの詳細をエクスポートします。

エンドポイント インベントリ データの収集方法とその管理方法については、「[インベントリの管理](#)」を参照してください。

音声およびビデオのエンドポイント モニタリング

サービス オペレータは、企業内のすべての音声とビデオ 会議のネットワークでサービスの劣化が生じた場合は、原因を迅速に切り分ける必要があります。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance は、エンドポイントのスペック、サービス インフラストラクチャ、ネットワーク関連の問題などエンド ツー エンドのメディアパスの詳細分析を提供します。

ビデオエンドポイントでは、Cisco Prime Collaboration Assurance により、すべての [Point-to-point (ポイント ツー ポイント)]、[Multisite (マルチサイト)]、[Multipoint (マルチポイント)] によるビデオ コラボレーション 会議を監視することができます。これらの会議は、次のいずれかのステータスとともにアドホック、スタティック、またはスケジュール済みとなります。

- In-progress
- Scheduled
- Completed
- No Show

Cisco Prime Collaboration Assurance は、次の場所から情報を定期的にインポートします。

- スケジュール済みの会議での管理アプリケーション（および Cisco TMS）や会議デバイス（CTMS、Cisco MCU、Cisco TS）。
- エンドポイントの登録時やコールステータスに表示される、コールや会議のコントロール デバイス (Cisco Unified CM および Cisco Expressway) 。

また、Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco Collaboration システムがサポートするアクティブ コールを継続的に監視し、コールの音声品質がユーザ定義の品質しきい値を満たさない場合は、ほぼリアルタイムに通知を提供します。Cisco Prime Collaboration Assurance では、ローカル ダイアルプランに基づきコールを分類することもできます。

IP フォンや TelePresence の監視方法を理解するには、Cisco Prime Collaboration のネットワーク監視、レポート、診断ガイド、9.x 以降の「[監視用ネットワークをセットアップするための前提条件](#)」を参照してください。

診断

Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco Medianet テクノロジーを使用して、ビデオに関する問題を特定および分離します。メディアパス計算、統計情報収集、および合成トラフィックの生成を行います。

ネットワーク デバイスが Medianet に対応している場合、Cisco Prime Collaboration Assurance は次のものを提供します。

- Mediatrace を使用したビデオ パスに沿ったフロー関連情報。
- Performance Monitor を使用した、ネットワーク ホットスポットでのすべてのトラフィックのスナップショット ビュー。
- ネットワーク上のビデオ パフォーマンスを評価するために、IP サービスレベル契約 (IP-SLA) とビデオ サービスレベル契約 (VSAA) を使用して、ネットワーク デバイスから合成ビデオトラフィックを開始する機能。

IP 電話では、Cisco Prime Collaboration Assurance は IP SLA を使用して、ネットワーク内の主要電話の応答可能性を監視します。電話ステータス テストは、次の内容で構成されます。

- テスト対象 IP フォンのリスト。
- 設定可能なテストのスケジュール。
- IP フォンに対して IP SLA 対応デバイス (スイッチ、ルータ、または音声ルータなど) から IP SLA ベースの ping。オプションとして、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバから IP 電話に ping することもできます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Medianet テクノロジーはサポートされていません。

Cisco Prime Collaboration Assurance を使用すると、コール ログを収集して、Cisco Voice Portal (CVP)、Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE)、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM)、および IOS ゲートウェイへのコールの障害を特定できます。この機能により、コールの問題のトラブルシューティングができます。SIP Call Flow Analyzer 機能を使用し、収集したコールをさらに詳しく調べて、メッセージ内の問題点を特定することができます。また、コールメッセージに障害があることを示すコールラダーダイアグラムを表示して、根本的な原因と推奨事項を提供できるため、問題の再現にも役立ちます。

障害管理

Cisco Prime Collaboration Assurance によって、ほぼリアルタイムで迅速かつ的確な障害検出が行われます。Cisco Prime Collaboration Assurance は、イベントの特定後に、イベントに関連するイベントでグループ化し、障害分析を実行して障害の根本原因を判別します。

Cisco Prime Collaboration Assurance では、個々のユーザにとって重要なイベントをモニタリングできます。また、イベントの重大度をカスタマイズできるほか、その重大度に基づいて Cisco Prime Collaboration Assurance から通知を受け取ることもできます。

Cisco Prime Collaboration Assurance は、アラームとイベントに関するトラップを生成し、トラップの受信者に通知を送信します。これらのトラップは、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバによって生成されたイベントとアラームに基づきます。トラップは SNMPv2c 通知に変換され、CISCO-EPM-NOTIFICATION-MIB に従ってフォーマットされます。

Cisco Prime Collaboration Assurance での障害モニタリングについては、「[アラームとイベントの監視](#)」を参照してください

レポート

Cisco Prime Collaboration Assurance は、次の定義済みおよびカスタマイズ可能なレポートを提供します。

- **Administrative レポート** — Provides System Status レポート、Who Is Logged On レポート、プロセス ステータスを提供します。
- **CDR & CMR レポート** — コール カテゴリ タイプ、コール クラス、コール時間、終了タイプ、コール リリース コードなど、コールの詳細を提供します。
- **Conference レポート** — All Conference Summary レポートと Conference Detail レポートを提供します。
- **TelePresence Endpoint レポート** — 完了済みおよび進行中の会議、エンドポイントの使用率、No Show エンドポイントの詳細を提供します。TelePresence レポートには、会議デバイスの一覧や、ネットワーク内の平均およびピーク使用率も提供されます。
- **Launch CUCM レポート** — Cisco Unified Communications Manager クラスターのレポートページへとクロス起動できるようにします。
- **Miscellaneous レポート** — UCM/CME Phone Activity レポート、Voice Call Quality Event History レポートなど、さまざまなレポートを提供します。
- **Scheduled レポート** — 使用率およびインベントリ レポートを提供します。レポートは、その場で生成するか、スケジューリングを有効にして事前に定義された日に生成できます。

さまざまなレポートのタイプとその生成方法については、「[Prime Collaboration Reports](#)」を参照してください。

IPv6 用の Cisco Prime Collaboration Assurance サポート

Cisco Prime Collaboration Assurance は、IPv6 のみの IPv6 エンドポイントとデュアル スタック ネットワークをサポートします。次の表には、IPv6 エンドポイントをサポートする Cisco Prime Collaboration Assurance 機能の詳細が示されています。

表 1: IPv6 デバイスをサポートする Cisco Prime Collaboration Assurance 機能

機能	サポートあり	注釈または制限
デバイスインベントリ/インベントリ：クレデンシャルプロファイル	IPv6 クレデンシャルプロファイルの作成	—
デバイスインベントリ/インベントリ：検出	<ul style="list-style-type: none"> IPv6 クレデンシャルプロファイルを承認して、これらのプロファイルを IPv6 アドレスに一致させることができる Ping して IPv6 デバイスに到達する エンドポイントが IPv4、IPv6、デュアルスタックを使用して Unified CM に登録されている場合は、アクティブな IP アドレス（登録したエンドポイントと通信するため Unified CM 設定で選択した IP アドレス）のみが表示されます。 エンドポイントがならびに IPv4、IPv6、またはデュアルスタックを介して VCS に登録することができる場合、VCS に登録したデバイスの IP アドレスを確認できます。 	<ul style="list-style-type: none"> Unified CM、TMS、CTS、その他のインフラストラクチャ デバイスは、IPv4 を使用した場合のみ管理できます。 Ping スweep 検索は、IPv6 サブネット上では機能しません。
デバイスインベントリ/インベントリ：インベントリ管理	インベントリ概要には IPv6 アドレスが表示されます。	—
会議の診断	<p>エンドポイント統計（システムと会議情報）には IPv6 アドレスが表示されます。</p> <p>エンドポイントのクイックビューには IPv6 アドレスが表示されます。</p>	—

機能	サポートあり	注釈または制限
エンドポイントの診断	エンドポイントの診断ダッシュボードには IPv6 アドレスが表示されます。	—
トラブルシューティング	—	IPv6 デバイスではトラブルシューティングをサポートしていません。
ダッシュボードとレポート	その他のレポート：Voice Call Quality Event History レポートと UCM/CME Phone Activity レポートには IPv6 アドレスが表示されます。	デフォルトでは、IPv6 アドレス列は非表示になっています。[列フィルタ (Column Filter)]アイコンをクリックすると、表示する列を変更できます。
トポロジ	IPv6 アドレスを持つエンドポイントを検索します。	—
Alarm ブラウザ	アラーム概要には、IPv6 アドレスが表示されます。	—
電話機の検索	IPv6 フォンを検索します。	—
Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合		
テクノロジー導入ダッシュボード	IP アドレス フィルタは、IPv6 アドレスを持つエンドポイントをサポートします。	—
資産使用状況ダッシュボード	IP アドレス フィルタは、IPv6 アドレスを持つエンドポイントをサポートします。	—
トラフィック分析ダッシュボード	IP アドレス フィルタは、IPv6 アドレスを持つエンドポイントをサポートします。	—
サービス体験ダッシュボード	IP アドレス フィルタは、IPv6 アドレスを持つエンドポイントをサポートします。	—



- (注)
- デュアルスタックデバイスの場合、前述の IP アドレス列には、UCM/UCE のおよび Phone Activity レポートを除き、IPV4 IP アドレスのみが表示されます。
 - North Bound Interface (NBI) 通信は、IPv4 ネットワークのみでサポートされています。
 - コロン (:) は、クレデンシャルプロファイルパターンのセパレーターとして、または複数のデバイスを追加するときには使用できません。

Cisco Prime Collaboration Assurance の概要 - MSP モード

Cisco Prime Collaboration Assurance の MSP モードでは複数のカスタマービューを提供します。このオプションは、マネージドサービスプロバイダーの環境で使用します。カスタマーごとに制限されたアクセスを実装し、管理を独立させることによって、複数のカスタマーのネットワーク（スタティック NAT 環境など）をより高度に管理することができます。



- (注) MSP モードの導入を選択できるのはインストール中のみです。

NAT 環境 - 導入シナリオ

次のシナリオで、NAT の背後にあるカスタマーのエンドポイントを管理できます。

- シナリオ - 音声エンドポイント

NAT 環境で Call Controller（エンドポイントのプライベート IP アドレスで設定）に登録済みの音声電話機 - Cisco Prime Collaboration Assurance ではパブリック IP アドレス（別称は管理対象 IP アドレス）で管理されています。

- シナリオ - 音声およびビデオエンドポイント

NAT 環境のカスタマープレミス内にある Call Controller に登録済みの音声およびビデオ/TelePresence エンドポイント - Cisco Prime Collaboration Assurance ではパブリック IP アドレス（別称は管理対象 IP アドレス）で管理されています。

- Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

シナリオ - TelePresence が Cisco TelePresence Exchange (CTX) にプロビジョニングされている

NAT 環境で CTX にプロビジョニングされている TelePresence エンドポイント - Cisco Prime Collaboration Assurance ではパブリック IP アドレス（別称は管理対象 IP アドレス）で管理されています。



-
- (注) コールマネージャ上で Cisco Unified Communications Manager が処理するノード (UCM クラスターのパブリッシャ) のクエリが、パブリッシャの IP アドレスまたはホスト名を返します。NAT 環境では、パブリッシャクエリ出力として返されるパブリックホスト名は、Cisco Prime Collaboration Assurance のプライベート DNS 設定で解決しないようにする必要があります。
- たとえば、パブリックホスト名が FQDN の場合、プライベート DNS は FQDN のないホスト名であるか、異なる FQDN のホスト名、すなわちパブリックドメインである必要があります。
-



-
- (注) **Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合**

1 人のお客様が使用するデバイスのプライベート IP アドレスは、別のお客様が使用するデバイスのパブリック IP アドレスと重複する場合があります。ただし、パブリック IP アドレスは、Cisco Prime Collaboration Assurance が管理するお客様の間ではそれぞれが異なります。

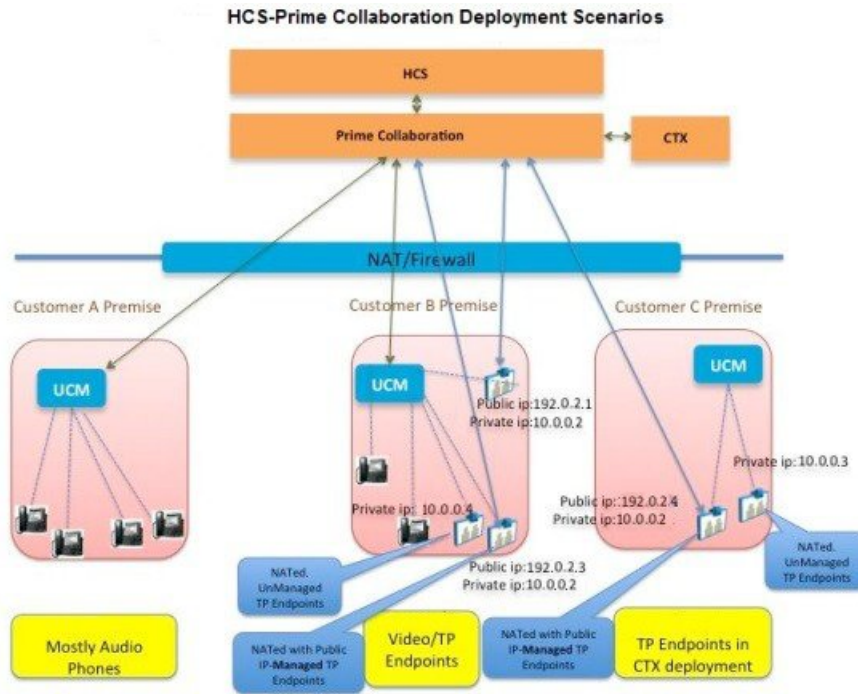
たとえば、「顧客 A」の IP フォンのプライベート IP アドレス (192.168.1.12) が、「顧客 B」の Unified Communications Manager のパブリック IP アドレス (192.168.1.12) と重複していたとします。したがって、パブリック IP アドレスが同じなため、NAT IP アドレスが Unified Communications Manager アプリケーション間でクロス起動する場合があります。

次の図には、NAT 環境での、HCS-Cisco Prime Collaboration Assurance の導入シナリオが示されています。

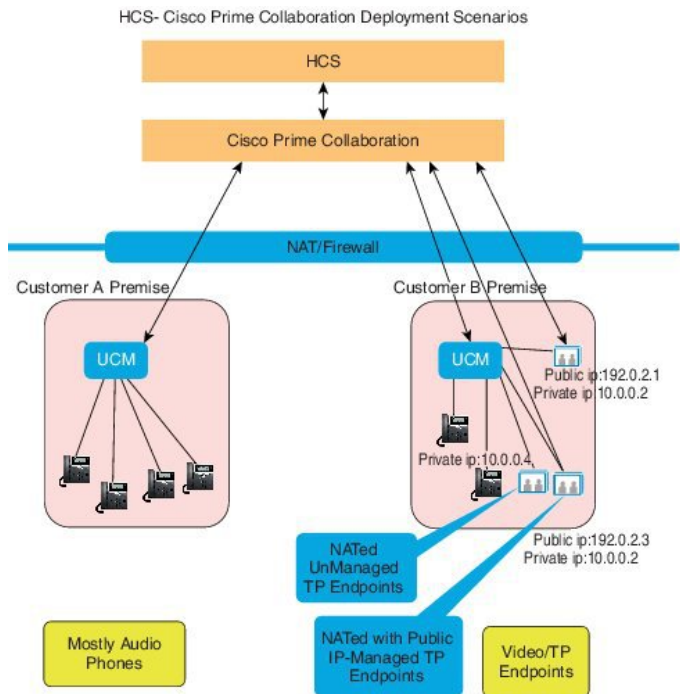


-
- (注) 次の図は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.1 以前のバージョンに適用されます。
-

図 1 : Cisco Prime Collaboration の導入シナリオ



(注) 次の図は、Cisco Prime Collaboration Assurance Release 11.5 以降のバージョンに適用されます。



音声とビデオの Unified Dashboard

それぞれの顧客を分離して、音声とビデオのコラボレーション ネットワークのエンド ツーエンド モニタリングができます。

各顧客のネットワークについて、次の内容の詳細および概要を表示できます。

- Cisco Unified Communications Manager および Cisco Video Communication Server クラスターの概要情報
- 会議とアラーム
- デバイスの詳細
- 各管理対象デバイスのパフォーマンス
- Contact Center のコンポーネント（Cisco Unified Intelligence Center (CUIC) 、Cisco Finesse、Cisco MediaSense、Cisco Unified Customer Voice Portal (Cisco CVP) 、Cisco Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE) など）の情報

[デバイスインベントリ (Device Inventory)]/[インベントリ管理 (Inventory Management)]

HCS 特有の検出の詳細については、「[HCS ドキュメント](#)」を参照してください。

各お客様の インベントリを個別に表示および管理することができます。

デバイスを検出する顧客を選択できます。非 NAT 環境では、パブリック IP（管理 IP）には検出された IP アドレスが入力され、プライベート IP にはデフォルトでパブリック IP（管理 IP）が入力されます。

ユーザはデバイスとクラスタを検出し、それらを特定の顧客に関連付けることができます。管理されている既存のすべてのエンドポイント、またはパブリッシャに登録されているサブスクリバが、パブリッシャから顧客名を継承するかどうかを選択できます。

Cisco Unified Communications Manager（電話機や Cisco TelePresence）、Cisco Expressway (Cisco TelePresence)、Cisco TMS (Cisco TelePresence) に登録されている、すべてのエンドポイントを検出および管理することができます。エンドポイントの管理に加えて、顧客の音声およびビデオコラボレーションネットワークに含まれる、マルチポイントスイッチ、アプリケーションマネージャ、コールプロセッサ、ルータ、スイッチも管理できます。

検出では、デバイスインターフェイスと周辺機器の詳細も取得され、Cisco Prime Collaboration Assurance に保存されます。

音声およびビデオのエンドポイント モニタリング

ビデオのエンドポイントの場合、Cisco Prime Collaboration Assurance では、各顧客用にすべてのポイント ツーポイント、マルチポイント、マルチポイントのビデオコラボレーション会議を監視することができます。これらの会議は、次のいずれかのステータスとともにアドホック、スタティック、またはスケジュール済みとなります。

- In-progress
- Scheduled

- Completed
- No Show

診断

複数の診断テストを実行して、個々のカスタマーの UC 電話ネットワークに関連する問題を特定できます。

NAT 環境では、パブリック IP アドレスを備えたエンドポイントでのみ Medianet がサポートされます。NAT 環境では、ビデオ会議の診断は、パブリック IP アドレスを持つエンドポイントのみサポートしています。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Medianet テクノロジはサポートされていません。

障害管理

複数のカスタマーのアラームとイベントを個別にモニタできます。また、イベントの重大度をカスタマイズできるほか、その重大度に基づいて Cisco Prime Collaboration Assurance から通知を受け取ることもできます。

カスタマー特有のデバイス通知グループも作成できます。

レポート

個々のカスタマーに対して事前に定義されているレポートとカスタマイズ可能なレポートは、すべて使用できます（ただし NAM や Sensor レポートなどのセンサーベースのレポートは除きます）。

Enterprise モードと MSP モードの詳細については、[Enterprise モードと MSP モードの違い（24 ページ）](#) を参照してください。

Cisco Prime Collaboration Analytics

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Analytics でサポートされている新機能は、次のとおりです。

- **グローバル顧客選択**：Cisco Prime Collaboration Analytics のホームページで、必要に応じてお客様を選択して情報をフィルタリングすることができます。
- **スケジュール設定済みレポート**：スケジュール設定済みレポートでは、複数のお客様の選択がサポートされています。生成されたレポートには、複数のお客様のデータが含まれています。
- **ロゴ管理**：お客様は、ロゴをアップロード、交換、削除できます。アップロードしたロゴはスケジュール設定済みレポートに含まれます。
- **ロールベース アクセス制御**：レポート ビューア ロールは、キャパシティ分析、ライセンス使用状況、マイ ダッシュボード以外のすべてのダッシュボードでサポートされています。

す。レポート ビューアではレポートをスケジュールすることはできず、[スケジュール済みレポート (Scheduled Reports)]メニューにアクセスすることもできません。

Enterprise モードと MSP モードの違い

Cisco Prime Collaboration Assurance に提供される機能は、次の表に記載されている相違点を除き、Enterprise および MSP モードでは同じです。

マネージド サービス プロバイダー (MSP) モード	Enterprise モード
Advanced モードでのみ提供されます。	Advanced の両モードがあります。
カスタマーを作成し、カスタマーに特定のデバイスを追加できます。	企業では、ドメインと呼ばれる論理ユニットを作成できます。これは Advanced モードのオプション機能です。
情報を、顧客、インベントリ管理、電話機のインベントリ レポート、会議およびエンドポイントの診断別にフィルタリングします。	情報を、ドメイン別、ならびにインベントリテーブルではインベントリ管理、会議およびエンドポイントの診断別にフィルタリングします。
および[顧客概要 (Customer Summary)]でダッシュボードとダッシュレットを提供します。 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合 Cisco TelePresence Exchange (CTX) は利用が停止されました。	および[顧客概要 (Customer Summary)]でダッシュボードとダッシュレットは提供されません。
特定の顧客のルータおよびスイッチに対して IP SLA テストを実行できます。	Ip SLA テストは、IP SLA 対応のルータとスイッチで利用できます。
CTX クラスター、および CTX でサポートされるミーティングタイプのサポートを提供します。 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合 Cisco TelePresence Exchange (CTX) は利用が停止されました。	CTX をサポートしません。
カスタマーグループに対してロールベースアクセスコントロール (RBAC) を提供します。	Assurance デバイスプールおよびエンドポイントに対してロールベースアクセスコントロール (RBAC) を提供します。
スタティック NAT をサポートします。	NAT をサポートしません。

マネージドサービス プロバイダー (MSP) モード	Enterprise モード
<p>ホスト型および非ホスト型の両方の導入モデルで CTX 管理機能をサポートします。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>Cisco TelePresence Exchange (CTX) は利用が停止されました。</p>	<p>CTX をサポートしません。</p>
<p>RTP ベースの診断テスト (Synthetic テストなど) は非 NAT 環境でのみサポートされます。</p>	<p>すべての機能がサポートされています。</p>
<p>NAT 環境の電話機では、Phone XML で検出されたデータは利用できません。ビデオ会議の統計と会議情報は、[Full Visibilty] に設定されていても、電話機では利用できません。</p>	<p>すべての機能がサポートされています。</p>
<p>センサーベースのコール品質レポートは使用できません。</p>	<p>すべてのレポートを使用できます。</p>
<p>NAT 環境では、Cisco TelePresence エンドポイントのヘルスモニタリングは、パブリック IP アドレスを備えた Cisco TelePresence エンドポイントでのみサポートされます。</p>	<p>すべての機能がサポートされています。</p>
<p>NAT 環境では、ビデオ会議および会議の診断は、パブリック IP アドレスを持つエンドポイントのみサポートしています。</p>	<p>ビデオ会議の診断の全機能がサポートされています。</p>
<p>自動検出はサポートされません。</p>	<p>自動検出はサポートされています。</p>
<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>FIPS 準拠はサポートされていません。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合</p> <p>FIPS 準拠はサポートされていません。</p>	<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>FIPS 準拠はサポートされています。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合</p> <p>FIPS 準拠はサポートされていません。</p>
<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>Perimeta Session Border Controller (SBC) はサポートされています。</p>	<p>Perimeta Session Border Controller (SBC) はサポートされていません。</p>

マネージド サービス プロバイダー (MSP) モード	Enterprise モード
NAT 環境では、パブリック IP アドレスを備えたエンドポイントでのみ Medianet がサポートされます。 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合 Cisco Medianet テクノロジはサポートされていません。	Medianet のすべての機能がサポートされます。 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合 Cisco Medianet テクノロジはサポートされていません。
Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合 SFTP サーバにアップロードされた Scheduled Reports の場合、レポートへのアクセスは Scheduled Reports を作成したユーザに制限されます。	Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合 sFTP サーバにアップロードされた Scheduled Reports では、すべてのユーザがレポートを表示できます。
Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合 Credential Profile 機能はサポートされていません。	Credential Profile 機能はサポートされています。

Cisco Prime Collaboration Assurance NBI

Cisco Prime Collaboration Assurance NBI は、次の点ものをサポートしています。

- デバイスの管理
- デバイス クレデンシャルを表示および削除します。
- フィルタ条件に基づきすべてのビデオセッションを一覧表示します。
- ビデオセッションをトラブルシューティングします。
- Unified CM クラスタからエンドポイント数を取得します。
- フィルタ条件に基づきアラームを一覧表示します。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

トラブルシューティングはサポートされていません。

NB API ドキュメントにアクセスするには、管理者権限で Cisco Prime Collaboration Assurance サーバにログインし、ブラウザ URL に次のとおりに入力します。

`http://<pc-server-ip>/emsam/nbi/nbiDocumentation`

<pc-server-ip>は Cisco Prime Collaboration Assurance サーバの IP アドレスです。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

NB API ドキュメントにアクセスするには、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバにログインし、ユーザインターフェイスの右上隅にある [設定 (Settings)] のドロップダウンメニューから [Assurance NB API ドキュメント (Assurance NB API documentation)] を選択します。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

`https://<pc-server-ip>:<port-number>/emsam/nbi/nbiDocumentation`

<pc-server-ip> はサーバの IP アドレスであり、<port-number> は HTTP ポート番号です。

例：

`https://<pc-server-ip>:8443/emsam/nbi/nbiDocumentation`

これらの NBI とは別に、アラームまたはイベントが発生するたびに、SNMPトラップ (CISCO-EPM-NOTIFICATION-MIB) をトラップの受信者に送信するよう設定できます。

Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics の Geo-Redundancy

Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics は、VMware vSphere レプリケーションにより地域の冗長性をサポートします。Geo-Redundancy を設定するため、追加の Cisco Prime Collaboration Assurance and Analytics ライセンスは必要ありません。Geo-Redundancy の詳細については、「[Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics 用の Geo Redundancy](#)」を参照してください。

新機能および変更された機能に関する情報

次の表には、12.1 Service Pack 1 のリリース用として、このガイドで追加または変更された情報が示されています。

Table 2: 新機能および変更された機能に関する情報

日付	更新内容
2018 年 4 月 10 日	TLS v1.2 通信プロトコルのサポート
2018 年 5 月 14 日	CUCM でセキュアな JTAPI 通信をサポートするための新しいフィールド
2018 年 7 月 4 日	セッション監視用のセキュアな JTAPI 通信

次の表には、12.1のリリース用として、このガイドで追加または変更された情報が示されています。

Table 3: 新機能および変更された機能に関する情報

日付	更新内容
2017年7月21日	Cisco Prime Collaboration Assurance セクションに [新機能 (What's New)] を追加しました。
2017年3月13日	[デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)] に関する情報が更新されました。
2017年3月14日	「クラスタのセットアップ」章にある TMS クラスタの既存のコンテンツが変更されました。
2017年3月27日	Audio Phone Report と Video Phone Audit Report が 1 つの Endpoint Move Report へとマージされました。
2017年3月31日	Audio Phone Report と Video Phone Move Report が 1 つの Endpoint Move Report へとマージされました。
2017年4月24日	Removed IP Phone Report と Removed Video Phone Report が 1 つの Endpoint Move Report へとマージされました。
2017年5月30日	Audio Extension Report と Video Extension Report が 1 つの Endpoint Move Report へとマージされました。
2017年4月5日 2017年4月17日	各ユーザ インターフェイスにいくつかの変更を加えました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. デバイスを削除するため依存関係を処理 2. CUBE SIP トランク : セッション サーバグループ設定の変更
2017年3月23日	Cisco Prime Collaboration Assurance からデバイスを削除したときに、削除されたデバイスについて、「デバイスの再検出」セクションの情報が更新されます。

日付	更新内容
2017年6月6日	<p>PIFServerを削除するプロセスの一部として、[インベントリスケジュール (Inventory Schedule)] ページから [IP Phone Inventory Collection] および [IP Phone XML Collection] が削除されます。この変更では、次のことに対応しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「システムパラメータの設定」、「クラスタデータ検出のスケジュール」、「インベントリ詳細の更新と収集」、「インベントリ詳細の収集」、「グローバルシステムパラメータ」セクションの情報を更新しました。 「IP Phone Discovery Schedule」と「Schedule IP Phone XML Discovery Schedule」セクションを削除しました。
2017年6月6日	CMEのsyslogs設定の説明を記載した、「Cisco Unified CMEのSyslogメッセージを使用してIPフォンを監視する」セクションが追加されました。
2017年6月6日	「インベントリの登録済みエンドポイントに関するライセンス」で行った変更を説明するため、「ライセンス数」セクションを更新しました。
2017年6月26日	「ジョブのスケジュール」セクションを修正し、[ジョブ管理ページの設定ボタンを修正]に関する問題を説明するため、新たに「タイムテーブルの定義」セクションを追加しました。
2017年6月26日	30日以上前のデータが毎日削除されることを含む、すべての監査レポートに関する変更は、「バックアップと復元の実行」および「ページポリシー」の表に記載されています。
2017年6月26日	「Cisco Prime Collaboration Assuranceのライセンスユーザインターフェイスでは、各プロファイル (Small/Large/BE6k) に基づきインポートできるライセンスの最大数を制限する必要があります」の変更点を特定するため、「ライセンスの管理およびライセンス詳細の表示」セクションに情報を追加しました。
2017年6月1日	Data Migration Assistant Toolによるスキーマ変更の取り扱いに問題を特定するため、「Cisco Prime Collaboration Assuranceのアップグレード」セクションに注記を追加しました。
2017年6月1日	FIPSコンプライアンスに関するすべてのオカレンスが非表示になりました。Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 Enterpriseの一部として、FIPSコンプライアンスは保証されていません。「FIPSコンプライアンスの有効化」セクション全体が非表示になりました。

日付	更新内容
2017年3月21日	SFTP クレデンシャルのユーザインターフェイスに関するナビゲーションが変更されています。「システム パラメータの設定およびシステム パラメータ上の表」セクション、ならびに対応する「sFTP設定の構成」セクションが変更されています。

Cisco Prime Collaboration Assurance の新機能

Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 Service Pack 1 の機能は Cisco.com からアクセスできます。

Table 4: Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 Service Pack 1 の機能

機能名	機能説明
TLS v1.2	Cisco Prime Collaboration Assurance のサーバおよびクライアント インターフェイスの両方では、TLS v1.2 通信をサポートします。
CUCM でセキュアな JTAPI 通信をサポートするための新しいフィールド	[インベントリ管理 (Inventory management)] ページで [デバイスの追加 (Add Device)]、[クレデンシャルの変更 (Modify Credentials)]、[クレデンシャルの管理 (Manage Credentials)] の JTAPI セクションが変更されました。このセクションには、TLS v1.2 上で CUCM を使用したセキュアな JTAPI 通信をサポートする 7 つの新しいフィールドがあります。
セッション監視用のセキュアな JTAPI 通信	Cisco Prime Collaboration Assurance のセッション監視機能 (会議の監視) に、TLS v1.2 上で CUCM を使用したセキュアな JTAPI 通信の プロトコル オプションが導入されました。
合成テスト用のセキュアな JTAPI 通信	Cisco Prime Collaboration Assurance の合成テスト機能に、TLS v1.2 上で CUCM を使用したセキュアな JTAPI 通信の プロトコル オプションが導入されました。

**Note**

会議の診断と音声電話機能の模擬テストを正しく実行するには、Cisco Prime Collaboration Assurance Service Pack 1 バンドルを適用する前に、CUCM がリストされているバージョンであることを確認してください。詳細については、12.1 SP1 の『[Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス](#)』を参照してください。

Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 の機能には、Cisco.com からアクセスできます。

Table 5: Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 の機能

機能名	機能説明
インベントリ : デバイス ステータスの概要	アンマネージド カウントの修正 : ヘッダーのアンマネージド カウントは、[デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)] ページのカウントと一致する必要があります。両方のカテゴリのカウントが、この条件を満たす必要があります。
インベントリ : TMS クラスタ	TMS 検出では、Cisco Prime Collaboration Assurance が CUCM または VCS デバイスを管理しなくても、TMS をプロビジョニングしたすべてのデバイス (CUCM/VCS/endpoint/MCU/TPS/TP_Conductor) を検出します。ただし、TMS 検出では、CUCM/VCS/エンドポイントが論理的に検出されることはありません。

機能名	機能説明
レポート	<p>次のレポートが1つのレポートにマージされました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="914 390 1484 590">1. Endpoint Audit Report は、Audio Phone Report と Video Phone Audit Report が1つになったレポートです。ナビゲーション：[レポート (Reports)]->[その他のレポート (Miscellaneous Reports)]->[Endpoint Audit Report] <li data-bbox="914 621 1484 821">2. Endpoint Move Report は、Audio Phone Report と Video Phone Move Report が1つになったレポートです。ナビゲーション：[レポート (Reports)]->[その他のレポート (Miscellaneous Reports)]->[Endpoint Move Report)] <li data-bbox="914 852 1484 1052">3. Endpoint Remove Report は、Removed IP Phone Report と Removed Video Phone Report が1つになったレポートです。ナビゲーション：[レポート (Reports)]->[その他のレポート (Miscellaneous Reports)]->[Endpoint Remove Report)] <li data-bbox="914 1083 1484 1283">4. Endpoint Extension Report は、Audio Extension Report と Video Extension Report が1つになったレポートです。ナビゲーション：[レポート (Reports)]->[その他のレポート (Miscellaneous Reports)]->[Endpoint Extension Report)]

機能名	機能説明
ユーザ インターフェイスの変更	<p>次は、各ユーザインターフェイスの変更点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デバイス削除時の依存関係：パブリッシャ、サブスクライバ、VCS、TMS、ESX、VCENTER、TPS、UNITY CONNECTION、MULTIPOINT コントローラ、IM&P などを含むデバイス、ならびにその他のインフラストラクチャ デバイスとそれらに関連付けられたエンドポイントは、[State] 状態が削除されるとデータベースから削除されます。 2. CUBE SIP トランク：セッション サーバグループ設定の変更 「セッション サーバグループ設定」の付いた CUBE SIP トランクを表示するには、[Collaboration ネットワーク管理による使用率の監視へのアクセス (Collaboration Network Administrator access the Utilization Monitor)] -> [CUBE SIP トランク (CUBE SIP Trunk)] タブの順に移動します。サーバグループの場合、この画面には、Dialpeer から SIP トランクまでの 1 つおよび複数の設定をサポートする際の、制限に関する情報が提供されます。サーバグループ設定では、イベントを発生/抑制するオプションもあります。
	<p>Cisco Prime Collaboration Assurance の削除時にデバイスを削除</p> <p>このアップデートには、管理者がデバイスを再検出する前に、デバイスを追加する必要があります。デバイス削除することについての説明があります。デバイスを削除する際に、Cisco Prime Collaboration Assurance からデバイスを削除します。</p>

機能名	機能説明
	<p>[インベントリ スケジュール (Inventory Schedule)]ページから IP Phone Inventory Schedule および IP Phone XML Inventory Schedule を削除します。</p> <p>Cisco Prime Collaboration Assurance Enterprise/MSP モードから PIFServer を削除すると、IP Phone Inventory Collection および IP Phone XML Collection 検出も削除されます。この変更では、次のことに対応しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [インベントリ スケジュール (Inventory Schedule)]->[IP Phone Inventory Schedule および Inventory Schedule (IP Phone Inventory Schedule and Inventory Schedule)]->[IP Phone XML Discovery 検出 (IP Phone XML Discovery)]ページが削除されました。 2. [インベントリ (Inventory)]タブの [Inventory Schedule] が [Cluster Data Discovery Schedule] へと名前変更されました。
CME Syslog	<p>ここでは、CME で syslogs を設定する手順を説明します。この syslogs は、Cisco Unified CME Syslog メッセージを使用した IP フォンの監視に役立ちます。</p>
インベントリの登録済みエンドポイントのライセンス	<p>最初に、特定のクラスタ内にある最新の登録済みエンドポイントをパージします。登録済みのエンドポイントをクラスタ名別に並べ替え、クラスタを識別し、ライセンス要件を満たすためパージします。電話機のライセンスをインベントリ モジュールに移植する間に、Cisco Prime Collaboration Assurance から PIFServer を削除します。</p>
[Job Management (ジョブ管理)]ページの [設定 (Settings)] ボタンに関するの問題の修正	<p>[ジョブの詳細 (Job Details)]ペインの [スケジュール (Schedule)]や [設定 (Settings)]タブを使用して、ジョブをスケジュールおよびオプションを設定します。</p>
監査レポートは 30 日後にパージ	<p>コール品質イベントの履歴とエンドポイント関連 (音声/ビデオ電話はエンドポイント関連のもので置き換え) の監査レポートデータは、30 日を経過するとパージされます。</p>

機能名	機能説明
Cisco Prime Collaboration Assurance ライセンス ユーザ インターフェイスでは、Small、Large、BE6k などの各プロファイルに基づき、インポートできるライセンスの最大数を制限する必要があります。	Cisco Prime Collaboration Assurance ライセンスでは、サポートしている数よりも多くのライセンス ファイルをアップロードすることができます。たとえば、Small から 3K のエンドポイントです。Cisco Prime Collaboration Assurance が、1つのプロファイルでサポートしている最大カウント数よりも少ないエンドポイントを持つライセンス ファイルを受け入れた場合は、ユーザにエラー メッセージを通知する必要があります。 これは、Assurance Mass、Contact Center Assurance、Analytics ライセンスに適用され、Small/Medium/Large/Very Large/BE6k/BE7K などのすべてのプロファイルをサポートしています。
DMA を介したスキーマ変更の処理	11.x (11.0、11.1、11.5、11.6) から 12.1 にアップグレードするときには、インベントリの周りのスキーマが変更されます。アップグレード中には、11.x で利用可能ないくつかのデータベース関連のテーブル列が削除されます。Cisco Prime Collaboration Assurance の全体機能には影響しません。 [Deleted] 状態のデバイス/エンドポイントはパージされ、アップグレード後には利用できません。
FIPS ユーザ インターフェイスの非表示	Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 Enterprise の一部として、FIPS コンプライアンスは保証されていません。このため、[System Administration (システム管理)] ページで FIPS を有効/無効にするセットアップメニューは非表示になっています。

機能名	機能説明
sFTP クレデンシャル ユーザ インターフェイスの実装	<p>ユーザ インターフェイスに [CUCM sFTP クレデンシャル (CUCM sFTP Credentials)] や [保存 (Save)] などのボタンが追加されました。同じユーザのパスワードを変更するためのチェックボックスと、パスワード オプションを確認するためのオプションを使用できます。</p> <p>ナビゲーションが [アラームとレポート管理 (Alarm & Report Administration)] -> [CDR ソース設定 (CDR Source Settings)] -> [CUCM SFTP クレデンシャル (CUCM SFTP Credentials)] から [インベントリ (Inventory)] -> [インベントリ管理 (Inventory Management)] -> [CUCM sFTP クレデンシャル (CUCM sFTP Credentials)] に変更</p>
RTMT Polling Inconsistency の実装：警告およびイベント用のメモ	マルチノードのコール マネージャ クラスタでは、同じアラートが複数のノードで同時に存在する場合、Cisco Prime Collaboration Assurance は最新アラートを 1 つのみ表示します。
電話機からエンドポイントで未登録のしきい値	「未登録の電話機」から「未登録のエンドポイント」へと変更されました。
プロセスの説明列：有用性	出力時にプロセスのステータスがわかるよう、各プロセスを示すプロセスの説明列が追加されました。
Prime Collaboration Assurance の Prime License Manager でライセンスの使用状況が表示されない	共存する PLM を管理しつつ、[監視 (Monitor)] -> [使用率の監視 (Utilization Monitor)] -> [ライセンスの使用状況 (License Usage)] に移動して CLI と HTTP のクレデンシャルを提供します。管理者は、CLI クレデンシャルを使用してライセンス情報や HTTP クレデンシャルにアクセスし、Cisco Prime Collaboration Assurance の Prime License Manager を管理することができます。
[Inaccessible] ステータスが SNMP タイムアウトとして表示	VMware vCenter Server または UCS Manager が [インベントリ (Inventory)] -> [インベントリ管理 (Inventory Management)] -> [クレデンシャルの管理 (Manage Credentials)] タブを通して追加されると、HTTP クレデンシャルのみが必要であることを示す注記が追加されます。これらのデバイスで SNMP が必要ない場合、[Inaccessible State] 列には「SNMP timeout」と表示されます。

機能名	機能説明
スタンドアロン PLM が PCA 11.6 で non-Cisco として検出	<p>この問題に対処するために、トラブルシューティング セクションが追加されました。</p> <p>これは、PLM に SNMP コミュニティ文字列が設定されている場合に発生する可能性があります。PLM を適切に検出するには、コミュニティ文字列を設定しないようにします。コミュニティ文字列に設定されている場合は、文字列を削除し、Cisco Prime Collaboration Assurance で PLM を検出します。Cisco Prime Collaboration Assurance は、PLM の検出で SNMP コミュニティ文字列の設定はサポートしていません。</p>
SFTP でレポートの生成後に PCA BACKUP ジョブのステータスでエラーが表示	<p>この問題に対処するために、トラブルシューティング セクションが追加されました。</p> <p>トラブルシューティング セクションには、ユーザフォルダで GPG キーを生成する方法が示されています。</p>
グローバル管理ユーザが破損しているため [OpsView ダッシュレット (OpsView Dashlet)] ページが読み込まれません	<p>[トラブルシューティングセクションでは推奨処置とパスについて説明しています</p> <p>この問題を解決するには、新しいスクリプト (opsview_globaladmin.sh) と推奨されるパス (/opt/emms/emsam/bin) を利用します。</p>
LDAP パラメータ値でアンパサンドが使用できない	<p>この問題を解決するため、注記が追加されています。</p> <p>LDAP に接続するため新しい LDAP パラメータ値 (?CN=hq-prime,OU=Service Access Groups,DC=Megafon,DC=ru?) が定義されました。</p>
スケジュールするには CME Discovery および Phone XML Discovery ジョブを制限	<p>この問題を解決するため、注記が追加されています。</p> <p>通常、CMEPhoneDiscovery および PhoneXML Discovery ジョブは 4 時間おきに実行するようスケジュールされています。これらのジョブは、再実行ではなく 1 回のみ実行するよう変更できます。検出後は、これをスケジュール設定に戻すことはできません。</p>

機能名	機能説明
すべてのオクテットが正しく表示されない	Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 OVA の導入時には、IP アドレス、IP デフォルト ゲートウェイ、IP デフォルト ネットマスク、バックアップサーバ IP に対して 3 つのオクテットのみが表示されます。4 番目のオクテットは表示されません。すべてのオクテットを表示するには、[タブ (Tab)] ボタンを押します。
ドキュメントから [デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)] の自動更新を削除	[デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)] ページの動作が変更されています。ページは 30 秒ごとに自動更新されません。
このスクリプトをサーバ上で実行して CDR_CMV レポートの生成およびエクスポート	管理者のみが CDR/CMR レポートをエクスポートできます。スクリプトを作成して、サーバ上でエクスポートのタスクを自動化します。
NBI API に関するマニュアル	Sample Input コードの確認と修正。
Device 360 のパフォーマンス データ	[デバイス 360 (Device 360)] ビューでパフォーマンス データは表示されません。その代わりに、[ここをクリックしてパフォーマンスデータを表示 (Click here for performance data)] リンクをクリックすると、同じデータが表示されます。
Ops ビュー クラスタ概要のパフォーマンス データ	[Call Health Summary] タブに列が追加されました。
このリリースからサポートの対象外となる機能またはデバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco TelePresence-Manager (CTS-Manager/CTS-MAN) デバイスはサポートされていません。そのため、ドキュメントからデバイスのすべてのオカレンスが削除されました。 2. FIPS 準拠はサポートされていません。そのため、ドキュメントからすべてのオカレンスが削除されました。 3. ドキュメントから CTX 固有のコンテンツが削除されました。 4. [論理検出の有効化 (Enable Logical Discovery)] ボタン: ドキュメントから論理検出を有効にするボタンが削除されました。 5. CLI はサポートされません。そのため、ドキュメントから CLI 固有のコンテンツが削除されました。

機能名	機能説明
一般	<ol style="list-style-type: none"> 「Cisco Prime Collaboration」から「Cisco Prime Collaboration Assurance」に名前変更されました。 「PhoneUnregThresholdExceeded」から「EndpointUnregThresholdExceeded」に名前変更されました。
Mixed モードでの UCM のサポート	<p>Cisco Prime Collaboration Assurance は、混合モードの Cisco Unified CM クラスタをサポートしています。</p> <p>ただし、次の Cisco Prime Collaboration Assurance の機能は、CUCM へのセキュリティで保護されていない通信に対してのみサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> セッション監視は、セキュリティで保護されていない JTAPI 通信を使用して、セッションを監視し続けます。 模擬テスト：セキュアモードで CUCM に登録されている CUCM およびエンドポイントへの、セキュアなシグナリング (TLS) およびセキュアなメディア (SRTP) 接続はサポートしません。

Cisco Prime Collaboration Analytics の概要

このドキュメントでは、Cisco Prime Collaboration 11.0、11.1、11.5、11.6、12.1、12.1 SP1、12.1 SP2、12.1 SP3 の機能について説明します。

Cisco Prime Collaboration Analytics は、トラフィックの傾向、テクノロジーの導入傾向、使用率が高いおよび低いリソース、ネットワークでのデバイスリソースの使用状況を識別することができます。また、断続的および繰り返し発生するネットワークの問題を追跡し、Cisco Prime Collaboration Analytics ダッシュボードを使用してサービスの品質問題も特定できます。

デフォルトでは、Cisco Prime Collaboration Analytics は Cisco Prime Collaboration Assurance アプリケーションとともにインストールされます。Analytics は無効にすることも、Analytics の評価ライセンスの期限が切れるまで使用することもできます。ただし、唯一の例外としては、非常に大きな OVA (150 K) をインストールする場合、Cisco Prime Collaboration Assurance のみをインストール、または Cisco Prime Collaboration Assurance を Cisco Prime Collaboration Analytics とともにインストールすることもできます。

インストールとシステム要件の詳細については、[『Cisco Prime Collaboration Assurance および Analytics のインストールとアップグレードに関するガイド』](#)を参照してください。

Cisco Prime Collaboration Analytics NBI

次は、Cisco Prime Collaboration Analytics 11.5 SP1、11.6、12.1、12.1 SP1 がサポートする NBI 機能です。

- 次のダッシュボードでは、NBI API サポートを利用できます。
 - キャパシティ分析
 - UC システム パフォーマンス
 - ビデオ会議の分析
 - ライセンスの使用状況
- **Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合**
Video Communication Server / Expressway



(注) Cisco Prime Collaboration Analytics Release 11.5 の一部として、次のダッシュボードでは NBI API がすでにサポートされています。

- テクノロジー導入
- 資産使用状況
- トラフィック分析
- サービス エクスペリエンス

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

NBI API は、[License Usage] ダッシュボードの [Video Communication Server / Expressway] ダッシュレットで使用できるようになりました。

- サポートされている命名規則は次のとおりです。
 - ダッシュレットの場合 :
`https://<PC Server>/emsam/nbi/<dashboard>/<dashletname>/summary/parameters`
 - 詳細ビューの場合 :
`https://<PC Server>/emsam/nbi/<dashboard>/<dashletname>/details/dvparameters`
- NBI API ドキュメントには、パラメータの説明や NBI のサンプル URL が含まれています。NBI API ドキュメントにアクセスするには、管理者権限で Cisco Prime Collaboration Analytics サーバにログインし、次のいずれかの URL をブラウザに入力します。
 - `https://<pc-server-ip>/emsam/nbi/nbiAnalyticsDoc/`
`<pc-server-ip>` はサーバの IP アドレスです。

- または

`https://<pc-server-ip>:<port-number>/emsam/nbi/nbiAnalyticsDoc/`

<pc-server-ip> はサーバの IP アドレスであり、<port-number> は HTTP ポート番号です。

例：

`https://<pc-server-ip>:8443/emsam/nbi/nbiAnalyticsDoc/`

- NBI URL で使用可能なパラメータは、GUI フィルタのパラメータとほぼ同じです。パラメータ名と値については NBI API ドキュメントを確認してください。



(注) Cisco Prime Collaboration Analytics 11.5 の NBI API では、大文字と小文字が区別されないパラメータ値はサポートされていません。

- Call Detail Records (CDR) の NBI サポート：

- NBI は、CDR ベース ダッシュレット用のレコードのクエリもサポートしています。

`https://<PC Server>/emsam/nbi/fetchCDR/fetchTableDetails`

- 結果には、CDR ベース ダッシュレットで凡例を選択したときにポップアップする、**詳細ビュー** のテーブルと類似した情報があります。

- 検索条件は、次のフィルタの 1 つを使用、または組み合わせることができます。

- **コール**：ステータス、グレード、クラスタ、クラス、タイプ
- **発信元エンドポイント**：dn、ip、uri、クラスタ/ロケーション、クラスタ/デバイスプール、ユーザ名、コーデック、エンドポイントモデル、エンドポイントタイプ
- **送信先エンドポイント**：dn、ip、uri、クラスタ/ロケーション、クラスタ/デバイスプール、ユーザ名、コーデック、エンドポイントモデル、エンドポイントタイプ

- NBI API では、大文字と小文字を区別しないパラメータ値がサポートされています。たとえば、パラメータ「*timePeriod*」では、値として *last7days*、*Last14Days*、*last7DAYS* などを使用することができます。

- Cisco Prime collaboration Analytics Release 11.5 の一部として、NBI API は、CDR ベース ダッシュレット用の Call Detail Records (CDR) のクエリをサポートしています。詳細については、「[Call Detail Records \(CDR\) NBI のサポート](#)」を参照してください。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

NBI API ドキュメントにアクセスするには、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバにログインし、ユーザインターフェイスの右上隅にある [設定 (Settings)] のドロップダウンメニュー

から[Assurance NB API ドキュメント (Assurance NB API documentation)] をクリックします。